

第103回 市民雑学講座 報告

演題：「夢があるから強くなる」

講師：小倉純二氏・日本サッカー協会最高顧問
／日本サッカー協会第12代会長（2010～2012年）

日時：2018年10月20日(土)15:30～17:30

会場：サンパルネコンベンションホール

今回の講師はサッカー界では大変著名な方ですが、高齢者が多い雑学講座の常連参加者にとってはあまりなじまないサッカーがテーマの講座に、参加者がどれだけ集まるか主催者側にとって大変心配でした。サッカー界の著名講師に講演して頂くのに参加者が少な過ぎても失礼になるし、知名度の高い講師で市内の少年サッカーの指導者等にも声をかけてもらったので会場に入りきれないほど集まっても困るといふ、どちらにしても不安がいっぱいでした。結果、いつもの平均参加者人数には届かなかったものの81人の参加者が集まり、まずは胸をなでおろしたところでした。

講演会は加藤氏の司会で定刻に始まり、大内会長の挨拶、来賓の渡部尚市長の紹介と市長から東村山市のスポーツやオリンピックへの取り組み紹介などのスピーチが講演会の前段に行われました。続いて司会から会場の笑いを誘う講師紹介の後、講演となりました。



FIFA（国際サッカー連盟）の紹介では国連の加盟国数を上回る FIFA 加盟国数 211ヶ国があること、欧州と南米が圧倒的に強く、世界ランキング10位のうち8ヶ国が欧州、2ヶ国が南米で全て占められ（因みに日本は54位）、ワールドカップ・ロシア大会で決勝に残った16チームの内訳は、アジアの日本と中南米のメキシコ以外は、欧州10ヶ国と南米4ヶ国となっています。

日本サッカーの歴史では、1873年に海軍兵学校でサッカーが始まり、1964年東京オリンピックでベスト8、1968年メキシコ・オリンピックで銀メダルという輝かしい成績の後には、20年以上にわたりワールドカップ予選、オリンピック予選で全て敗退するという「暗黒の時代」でした。この時、1988年に小倉氏が委員長となって日本サッカー再生のために「活性化委員会」を立ち上げ、更に2002年のワールドカップ招致を提案したのです。1993年にはJリーグが発足、1996年に念願のワールドカップ開催が決定したのですが、韓国との共催となり、小倉氏も韓国との調整にご苦労されたようです。



日本のサッカーファンのマナーの良さ、選手のマナーの良さは世界から称賛されていることも紹介されました。Jリーグで当たり前になっている試合後のスタジアムのごみ後片付け、試合後の選手控室の後片付けされて整然とした様子を写した写真が地元紙に取り上げられて話題になったということで、日本人として誇らしい気持ちになりました。

講演終了後、質疑応答が行われ、大学スポーツでのサッカーの人気低迷、日韓共同開催での苦労話などが取り上げられました。

講演会終了後、近くのスナックで懇親会が行われ、18名が参加して小倉講師を中心にサッカーの話題で盛り上がりました。懇親会の最後は大内会長の音頭で「都の西北」を歌い、お開きとなりました。

(文：吉田 勝 写真：野中 昭夫)



【講演会参加者（会員）】

青山稔、市川彰彦、遠藤誠、大内一男、岡田一郎
加藤正俊、上町弓子、鴨田仁、倉田哲也、紅松容子、黒田祐司、小菅宏、小林俊治、同奥様、清水聡
高橋正夫、高柳剛、滝川桜子、太刀岡貴司、當間昭治、野中昭夫、藤井省、三宅良太、森本吏、安田忠治
山本岩男、吉田勝、吉村正 以上、会員27名、ご家族1名、計28名

【懇親会参加者】

小倉講師、鈴木中央公民館館長補佐、坂本(会員・講師紹介者)、大内、吉田(勝)、滝川(桜)、富澤、清水、小菅
黒田、加藤、青山、上町、野中、岡田、森本、高柳、藤井